源宗山地区で開催されている『こらんしょ会』の一コマ。紙風船を使ったゲームで盛り上がる参加者からは笑顔が絶えません。

特集

地域で広がる ささえ愛の輪

超高齢社会の今、高齢者のみなさんが、住み慣れたこのまちで安心して暮らし続けることができる地域づくりが大切となっています。
今号では、“地域の居場所”づくりに取り組む「くにみささえ愛」の活動について紹介します。

「結」の心をもう一度

かつて、日本各地では「結（ゆい）」といわれる地域活動が行われていました。

「結」とは、田植えや稲刈り、屋根ふき、冠婚葬祭や年中行事など、暮らしの営みを地域の住民が協力しながら行う「相互扶助（組織）」のことをいいます。そこにあるのは、「他人事を自分事に」という助け合いの精神。「結」は、地域の絆や結束力を生み出す土台でもありました。

古くは、国見町においても各地域で「結」の活動が活発に行われ、住民同士の「支え合い」によって地域社会を維持発展させてきました。しかし、少子高齢化や生活スタイルの多様化による核家族化が進み、地域との関わりは次第に薄れ、「結」が失われつつあります。

国見町における平成29年10月1日現在の65歳以上の高齢者数は3、574人で、町人口の約四割を占めます。一方で、14歳以下の年少人口は879人と、一割を切るほどまでに減少し、家族の小規模化と高齢化が進む中で、高齢者の一人暮らし世帯や高齢者夫婦世帯は増え続けています。

超高齢化と少子化を伴いながら進む人口減少に向き合っていくためには、地域のみなさんの「支え合い」が不可欠です。暮らし続けてきたふるさとを守り、次の世代に繋（つな）ぐためにも、今こそ、かつての「結」のような地域づくりが必要なのではないでしょうか。

これからの地域づくりを考える「くにみささえ愛」

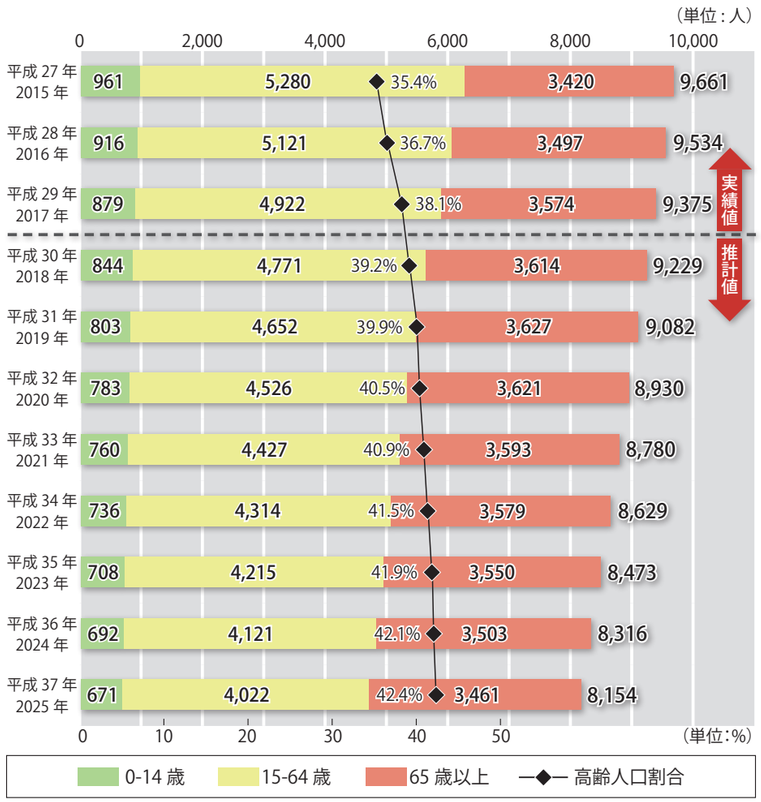
そこで、地域における「支え合い」の輪を広めていくため、〝地域の居場所〟づくりを地域の人々が中心となって創り出す仕組みづくりを進めようと、平成29年3月に「くにみささえ愛」が立ち上がりました。

「くにみささえ愛」では、月に一度、地域福祉に携わるみなさんが集まり、これからの「地域づくり」について話し合いをしています。ここには、〝地域の居場所〟づくりに取り組んでいる『こらんしょ会（源宗山地区）』、『いっぷくの会（塚野目地区）』、『宮東町内会』のみなさんも参加し、各地区の特色ある活動の報告と振り返りを行います。課題や反省点も出されますが、参加者のみなさんから多くの意見やアドバイスが寄せられ、話し合いの成熟度の高さがうかがえます。

そこに、私たちが、今後さらに加速していく超高齢社会を乗り越え、住み慣れた地域で、笑顔で安心して暮らし続けていくための〝ヒント〟があるのです。

◀地域住民総出で行われた屋根の葺（ふき）替え作業（昭和43年頃）

国見町の人口と高齢化率の推計



資料：平成27年から29年度は住民基本台帳の実績値。
平成30年度以降はコーホート変化率法による推計値。　各年10月1日現在